



年 組 名前

道新 ワークシート

ガソリン高騰 道内160円台

観光、物流回復に冷や水

道内のガソリンが平均で1リットル160円台、軽油が140円台と高騰し、緊急事態宣言の解除でようやく動き始めた観光・物流業界の足かせになっている。15日には道の旅行助成事業「新しい旅のスタイル」が再開されるなど、人や物の動きの回復が期待されるだけに関係者は頭を抱えている。(田中雅久、森川純)

苫小牧市のウトナイ湖ではハクチョウが飛来し、道の駅ウトナイ湖には平日で千数百人、土日は3千人以上が訪れている。ただ、国

の観光支援事業「G・O・T」の「トラベル」があった昨年と比べると1、2割少ないという。道の駅の西村宏基(55)は「宣言解除で

鳥を見に来る人たちが先週から増えてきたが、ガソリン価格の上昇が逆風になっているようだ」と話す。経済産業省によると、11

日時点のレギュラーガソリンの道内平均小売価格は、1リットルあたり161円40銭と前年同期より20円以上高く、軽油も144円20銭と高騰。背景にはワクチン接種の進展で世界的に経済が回復基調に入り、原油需要が伸びていることがある。

同時に円安も進んでいるため、関係者は上昇基調は当面続くとのみだが、道民生活や企業の事業活動には「冷や水」になる。

札幌市西区のガソリンスタンドで15日朝に給油したAさん(70)は「同区は、普段は3千円分給油するところを2千円分に減らした。買い物や釣りで車を使うといい「家計に響くのは間違いないので、入れるのをちゅうちょしてしま

う。安くなるのを願うばかりだね」とため息をつく。

北海道トラック協会の西原英二常務理事は「車体も大きいし、エコドライブなどに気を付けても限度がある。(高騰分を運賃に上乗せする)燃料サーチャージができれば良いが、荷主の立場が強くて難しい」とこぼす。札幌観光バス(札幌)は「キャンセルが続いている。修学旅行がようやく実施され始めたところに燃料費高騰。停車中の暖機運転を控えるなど経費削減策を徹底したい」とする。

道内21カ所で給油所を運営する中和石油(札幌)の杉沢謙次郎社長は「原油価格が上がれば店頭価格も上げざるを得ない」と言い、先行きを注視している。



原油高騰を背景に、レギュラーガソリンを1リットルあたり162円で販売するガソリンスタンド

15日、札幌市西区(館山国敏撮影)

2021年10月16日朝刊 全道版 経済面 9ページ (記事は一部再編集しています)

①ガソリン価格が高騰している原因を記事から読み取って書いてみましょう。

②このままガソリン価格が高騰すると、どのような影響が出てくると考えられるか、記事を参考に「産業」の視点で考えて書いてみましょう。